

ミュンヘンだより

NO.5
2014.7.30

ミュンヘンには、たくさんの歴史的な建造物や世界的な名画を所有する美術館、そして世界有数の規模を誇るドイツ博物館など、芸術や文化について学べる場所がたくさんあります。また、ミュンヘン近郊にも、ドイツ・バイエルン地方はもちろんヨーロッパの歴史や文化と深く関わる興味深い街がいくつもあります。そんな街の中で、これまでに私が訪れた二つの街を紹介します。

ミュンヘン日本人国際学校 山本 泰

ニュルンベルク

ドイツ・フランケン地方の経済・文化の中心であるニュルンベルクは、中世からの伝統ある都市であり現在も旧市街は中世の城壁で囲まれています。その一方で、この街は第二次世界大戦中ナチスと深い関わりを持ち、ナチス政権下のドイツを象徴する都市でもありました。そのため連合国軍による空爆の優先目標となり、旧市街は破壊され、全市域が甚大な被害を負ったそうです。一時はこの破壊された街を放棄して、他の場所に新しい街を創ることが真剣に検討されたそうですが、大部分の建物が戦後に再建され、現在は中世の面影を残す美しい町並みが復元されています。



ニュルンベルクの冬の風物詩「クリストキンドレス・マルクト」は、ドイツで一番有名なクリスマスマーケットです。クリスマスマーケットは、元々厳しい冬が来る前に日用品を売買する場として生まれ、今日のように様々なクリスマスのデコレーションや地域の芸術品、パン菓子や手仕事で作られたおもちゃを販売し、クリスマスの音楽で彩られるものとなったのは19世紀になってからだそうです。

ニュルンベルク旧市街の中央広場には、たくさんのテントが並びマーケットが盛大に行われます。クリスマス用の飾りはもちろん、ニュルンベルク名物の焼きソーセージやレーブクーヘン（シナモン入りクッキー）、グリューワインなど、食べ物を売るお店もたくさんあります。グリューワインは、赤ワインに色々な香辛料とオレンジ、レモンを入れて飲む温かい飲み物で、どこのクリスマスマーケットでも売られている定番の飲み物です。これを飲みながら回るのが、ドイツのクリスマスマーケットの醍醐味のようなのです。さらに別の広場には、「子どもクリスマス市」がたち、メリーゴーラウンドや観覧車などが登場して、まるで遊園地のようなのです。そしてもう一つニュルンベルクのクリスマスマーケットには独自のイベントがあり、クリストキンドルに扮した少女が歓迎の挨拶をしたり、子どもたちへお菓子を配ったりします。このクリストキンドルは、この町に住む16歳から19歳までの少女の中から2年に1度選ばれ、アドヴェントの期間中、クリスマスマーケットのイベントだけでなく、施設や病院などを慰問したりマスコミの取材を受けたりもするそうです。



アウグスブルク

アウグスブルクは、バイエルン州でミュンヘン、ニュルンベルクに次ぐ第三の都市です。ミュンヘンからは、快速電車を使って40分で行くことができ、毎朝ミュンヘンまで通勤している人もあります。アウグスブルクの名前は、ローマ皇帝アウグストゥスによって建都されたことに由来し、中世には大富豪フッガー家のもと、ヨーロッパの商業・金融の中心都市として栄え、現在でもフッガー家に関するものが街の至る所に見られます。今回は、中学2年生と一緒にキャリア教育の一環として、「フッゲライ」と「手工業博物館」の見学に出掛けました。



世界最初の計画的集合住宅として知られる「フッゲライ」は、ヤーコブ・フッガーの時代、低所得者のための共同住宅として建設されました。その入居条件は、低所得でアウグスブルク市民であり、罪科がなく敬虔なカトリック教徒で創設者の冥福を日に三度祈ることだったそうです。フッゲライには、現在も150世帯ほどが家賃年わずか1ライン・グルデン（88セント）、日本円でおよそ120円という安さで生活しています。各家をよく見比べてみると、玄関ベルの取っ手がみな違う形をしています。これは、まだ街灯が無かった時代、真っ暗でも玄関ベルを触れば自分の家分かるように、と工夫されたものだそうです。また、フッゲライは当時から夜になると門に鍵がかけられていました。住人の門限は午後10時と定められており、門限を過ぎると25セントの罰金、そして真



夜中の12時を過ぎると50セントの罰金が課せられます。第二次世界大戦ではフッゲライもかなりの被害を受けました。今も防空壕のあとが、当時の資料を展示する場所として保存されています。また、一部の住居は空襲の被害を受けずに、現在13番の住居が博物館として残され、隣の14番の住居には、かつてモーツァルトの曾祖父が住んでいたそうです。

アウグスブルクは古くから交通・商工業の中心地として栄え、フッガー家によって金融都市として繁栄を極めたことから、「フッガーシュタット」（フッガーの街）とも呼ばれています。その一方で、中世には多数の金銀細工師が住んでおり、何世紀にもわたって高い名声を得てきました。現在もこの分野の職人が他の都市に比べてとても多く、「パン屋より彫金師が多い街」とも言われるそうです。シュヴァーベン手工業博物館は、シュヴァーベ



ン手工業会議所が運営する小さな博物館で、たとえば理髪師兼外科医、馬具職人、靴作り職人、時計作り職人、パン焼き職人、製本職人、服飾雑貨製造職人といった、古く、多くは後継者のいない手工芸について紹介しています。ここでは、その設備、道具、材料を見ることができました。その後、街中にある小さな工房で職場体験も行い、実際に働く職人さんの姿を見ることもできました。

